



Washington Japanese Heritage Center

ワシントン日本語継承センター

keisho.org / P.O.Box 142 Cabin John, MD 20818

2022年6月11日

継承センターのご家族の皆さまへ

ワシントン日本語継承センター(継承センター)理事会では毎年、当組織の現状、運営、今後の計画についてご報告しております。2021-22年度、コロナ禍以前に近い活動を再開できたことを、ここに嬉しくご報告します。最も重要なこととして、感染拡大の注意を払いながらも、対面授業を再開することができました。コロナ禍によるさまざまな問題を切り抜けてきたこの2年間、継承センターファミリーの皆様の変わらぬサポートに、心より感謝申し上げます。コミュニティのニーズにお応えするためこれからも前進して行くにあたり、お子様やご家庭、スタッフ全員に対し、ご理解とご協力に感謝申し上げます。

2021-22年度は、116名の子供たちと、大人向けプログラムに15名の保護者生徒が在籍しました。ゼネラルマネージャーと教師陣(今年度はカリキュラムコーディネーター1名、教師8名、ティーチングアシスタント9名で構成)が、10クラスおよび大人向けプログラムを行いました。さらに、財務担当1名、ウェブマスター1名、入学事務アシスタント1名を雇用しています。

子供たちのクラスはホームルーム10クラスに分かれ、生徒の全般的な日本語スキルを高め、日本と日本文化の知識と経験を深めるよう、教師・アシスタント陣が指導しています。グループの混合を減らすため、生徒たちは終日、ホームルームクラスで授業を受けました。通常通り、プロジェクトベースのカリキュラムに従ったアクティビティにより、生徒たちは日本語と日本文化を学び、それぞれの多文化アイデンティティを探っています。今年は設立以来初めて、スミソニアン博物館と国立動物園への全校遠足を行いました。

コロナ禍の制限の中でも、継承センターでは運動会をはじめ、餅つきや節分などの伝統行事を行うことができました。また継承センターの生徒たちは、バーチャル・ジュニアジャパンボウルに参加し、数人が国連国際学校俳句コンテストの決勝に進みました。さらに「さくらまつり」では、ステージ上で生徒と保護者が歌を披露し、人気の文化展示テントで応対にあたりました。

継承センターは日本大使館やHub Park、日米協会などの他組織との絆を維持しています。今年は再び、音楽演奏者をノーウッドスクールに招くことができました。西濱正博・恵子夫妻による琴と尺八の素晴らしいパフォーマンスを楽しみ、和太鼓奏者の夕田敏博氏と三味線奏者の大野



Washington Japanese Heritage Center

ワシントン日本語継承センター

keisho.org / P.O.Box 142 Cabin John, MD 20818

敬正氏は、エネルギーあふれる演奏を披露してくれました。またマイヤゆかり氏による生け花、谷脇多佳子氏によるおにぎり作り、大貫木綿氏によるフリカケ作りといった、ゲストの指導によるワークショップも行われました。ゲストスピーカーとパフォーマーの皆さんに心から感謝申し上げます。日本の伝統文化のエキスパートから学べるのは、本当に貴重な機会です。

継承センターはまた、継承ファミリーと卒業生を対象に、大人向け日本語プログラムの提供を引き続き行っています。このクラスは、ご家族全体で日本語の学習に関わっていただくことにより、継承言語教育という継承センターの役割を補完するものです。当理事会では引き続き、参加を希望するすべての保護者の方々に提供できるよう、大人向けプログラムを拡充していきたいと考えております。

2021年秋より、さくら幼稚園が継承センターのプログラムに組み込まれました。この新幼稚部クラスは「さくら」ホームルームとなり、3～5歳の生徒が対象となっています。可愛らしい生徒たちがコミュニティに加わり、年上の生徒たちと共に、授業時間中にさまざまな学習アクティビティに参加できました。

2004年の設立以来、継承センターでは、経費の増加にもかかわらず、教育の質を落とすことのないよう注意を払いながら、コストダウンを心がけて参りました。有能なスタッフを維持し適切に報いるため、インフレ率を鑑みて、2022年の給与を引き上げたいと考えています。現時点で、継承センターでは2022-23年度の授業料の値上げを予定しています。きょうだい割引と一括払い割引、および大人向けプログラム受講者のインセンティブは、引き続き適用されます。スタッフおよび理事会は、運営を進める中で、キャッシュフロー、経費、予算を引き続きしっかり監視しています。(2021-22年度の継承センターの運営予算実績を末尾にまとめておりますのでご覧ください。)継承センターはこれからも引き続き、価値ある学習活動を提供し続け、良好な財務状態を維持して、今後も充実した活動を続けて参ります。

理事会では、どのご家庭にとっても経済的な懸念が入学の障害となることはないようにしたいと考えています。理事会は、経済的な困難に直面しているご家庭があることを認識しており、必要のあるご家庭には学費援助をご利用いただけるようにしたいと考えています。適用基準は、連邦の貧困基準ガイドラインの3倍の収入額を目安としていますが、ケースバイケースで酌量しています。学費援助に関する詳細は、理事や財務担当者、ゼネラルマネージャーに遠慮なくお尋ねください。すべてのお問い合わせの秘密は守られます。



Washington Japanese Heritage Center

ワシントン日本語継承センター

keisho.org / P.O.Box 142 Cabin John, MD 20818

2021年、継承センターは、ワシントン日本商工会(JCAW)による助成金\$2,000の給付を受けました。この助成金は新しいノートパソコンの購入に充てられます。継承センターがJCAWから助成金を受けるのはこれで2回目となります。引き続きご支援いただき、嬉しく思っています。昨年7月には、継承センターの設立メンバーおよび他のコミュニティメンバーが、茂木敏充外務大臣による外務大臣表彰の公式授賞式に出席しました。素晴らしい荣誉です。

継承センターはこれからも成長し続け、変化し続けます。けれども、生徒たちが日本語と日本文化を生涯にわたって大切にできるよう育む、という継承センターの使命は変わりません。継承センター理事一同、継承センターの業績と発展を誇りに思います。これからもコミュニティに貢献し、生徒とご家族の皆さんと協力し合い、今後も向上と発展を続けていくのを楽しみにしています。ご質問やご意見、ご提案などは、ぜひご遠慮なくお寄せください。

今後ともよろしく願いいたします。

継承センター理事

ベッツ 阿紀子

マーガレット・ゴーバディ

ピーター・ファレル

浜野 祥子

ドナルド・ハリソン

マーク・ヒッツイク

ケン・ナイト

宮島 智美

吉川 恵夫



Washington Japanese Heritage Center

ワシントン日本語継承センター

keisho.org / P.O.Box 142 Cabin John, MD 20818

	2021-2022年度 実績 (9月～5月) + 予測 (6月～8月)
収入 (単位: US \$)	予算
助成金	1,625
授業料	162,944
寄付	840
ファンドレージング	(358)
利息	24
その他の収入	370
小計	165,444
支出 (単位: US \$)	
給与	112,397
賃借料	38,476
遠隔教育	223
消耗品 (Tシャツを含む)	8,847
保険	6,000
一般運営費/諸費用	11,632
技能開発	240
試験受験料	253
教科書/イヤープック	(105)
授業料補助・授業料還付	3,874
謝礼、ギフトカード、寄付	1,000
その他の費用	387
小計	183,224
不足額 (累積剰余金から支払い)	(17,780)



Washington Japanese Heritage Center

ワシントン日本語継承センター

keisho.org / P.O.Box 142 Cabin John, MD 20818